

あ の こ ろ

～子ども時代を本で振り返る～

読む
幸せ。

学習院大学図書館

第 249 回 所蔵資料展示

はじめに

今回の展示は、「読む幸せ」をテーマに、＜あのころ＞
に焦点を当てて、本をあつめました。

大学生の〔今〕、将来のことを考える機会が多いと思
います。めまぐるしく動いていく時代のなか、かつて子ども
だった『自分』を思い出してみませんか。

＜あのころ＞を思い出すことで、見えなかった『自分』
が見えてくるかもしれません。

目次

1

子ども時代

2

子どもの世界

3

少年・少女時代

4

『自分』の世界

子ども時代

子ども時代の、眩しくてあたたかい日々。

＜あのころ＞感じた、言葉にできなかった思いを（今）ふりかえる。

一私は、私という王国の中に生きる幼い「いしいももこ」に物語をせがまれるから、
こんなに長い間、子どもの本を書いてきたの。

『ひみつの王国：評伝石井桃子』尾崎真理子著 【大学図・1F 開架 Best/2014】

『ノンちゃん雲に乗る』『クマのプーさん』など、作家として翻訳者として編集者として、あふれる才能すべてを「子ども時代の幸福」に捧げた百一年の稀有な生涯。

本人へのインタビュー、関係者への取材、様々な文献を通して語られる石井桃子の評伝。

表紙には、非現実の王国に生きたヘンリー・ダーガーの絵が使用されている。

子どもたちよ

子ども時代をしっかりと

たのしんで ください。

おとなになってから

老人に なってから

あなたを 支えてくれるのは

子ども時代の 「あなた」 です。

幼年記

～幼いころの記憶～

—あの静な^{こども}子供の日の遊びを心からなつかしくおもう。

『銀の匙』中勘助著 【大学図・書庫 081.2/33C/634】

～子どもの目を通して描く～

『梨の花』中野重治著 【大学図・書庫 081.2/33C/438】

～^{こども}小供のとき～

『硝子戸の中』夏目漱石著 【大学図・1F 開架 Shincho/な 1/15】

2001年杉並区立中央図書館で開催された「石井桃子展」に寄せられた自筆色紙より。

幼い日の『自分』に会いにいきませんか。

子ども時代

ここでは、学習院大学図書館に所蔵されている石井桃子さんに関連したすべての本を紹介します。

～石井桃子さんが照らしてくれた児童文学の道～

『プーと私』石井桃子著 【大学図・1F 開架 909A/I75p】

著者が世に送り出した『ピーターラビット』シリーズ、『クマのプーさん』など英米の児童文学についてや、アメリカの図書館で子どもの本について学んだことを綴った**プーさんの色**が目印の一冊。

～どんなに時代が変わっても、子どもの世界に本を～

『子どもの図書館』石井桃子著 【大学図・1F 開架 081.2/2A/559】

『新編子どもの図書館』石井桃子著 【大学図・1F 開架 016.2A/I75s】（『子どもの図書館』に加筆修正したもの）

その他の著作

『みがけば光る』石井桃子著 【大学図・1F 開架 914.6A/I75m】

『においのカゴ 石井桃子創作集』石井桃子著 【大学図・1F 開架 913.6A/I75n】

『キャザー』石井桃子編 【大学図・書庫 930.28/7/12】

石井桃子さんによる翻訳書

『今からでは遅すぎるミルン自伝』A.A. ミルン著 石井桃子訳 【大学図・1F 開架 930.28/703】

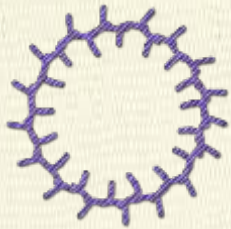
『児童文学論』リリアン H. スミス著 石井桃子ほか訳 【大学図・書庫 909/4】

石井桃子さんについて書かれた本

『石井桃子の翻訳はなぜ子どもをひきつけるのか「声を訳す」文体の秘密』

竹内美紀著 【大学図・1F 開架 910.268A/I75t】

『ユリイカ 詩と詩論 特集石井桃子』39巻8号 【大学図・書庫 905/40//P】



子どもの世界



<あのことろ>の子どもの世界は今も、あなたの中で続いている。

—彼らは無限の可能性を秘めた魔法の世界に住んでいる。

『本・子ども・大人』ポール・アザール著 矢崎源九郎，横山正矢訳

【大学図・書庫 909/25】

本著では、フランスの文学史家ポール・アザールが子どもたちの想像力を空高く飛ばさせるために大人に向けて‘子どもと本の世界’について説いている。空想や想像の重要性を知っているアザールならではの、子どもへの愛に満ちた言葉の輝きは、かつて‘子ども’だったあなたを再び「魔法の世界」へ連れていってくれるだろう。

—幼い日に本のたのしみを知ったのが、幸せのはじまりでした。

『子どもと本』松岡享子著 【大学図・1F 開架 081.2/2C/1533】

東京子ども図書館を設立、児童文学の翻訳、創作、研究の第一人者である松岡享子さんが語る‘子どもと本の世界’。

第1章：子どもと本とわたし 第2章：子どもと本の出会いを助ける

第3章：昔話のもっている魔法の力 第4章：本を選ぶことの大切さとむつかしさ

第5章：子どもの読書を育てるために —全5章

—これが、世界なんだ。これが、わたしの居場所なんだ。

これが、喜びなんだ……。

『子どもが孤独(ひとり)でいる時間(とき)』

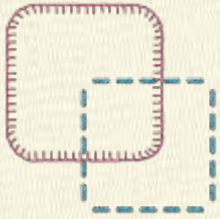
エリーズ・ボールディング著 松岡享子訳

【大学図・書庫 370.14/631】

「わたしたちは、だれでも、自分が子どものころ、ひとりでいるときに感じた喜びの記憶を、心の奥深くに、大切にしまっているのではないのでしょうか」こう問いかける本書は、否定的な意味として捉えられることの多い「^{ひとりであること}孤独」に光をあて、子どもの内的成長において「^{ひとり}孤独でいる時間」の大切さを述べている。



子どもの世界 ～ここでないところ、いまだないとき～



子ども時代にだからこそ生み出されるもの



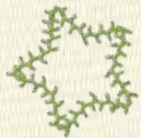
子どもたちによる文学に耳を傾ける時が来ている

『子どもが描く世界：オースティンからウルフまで』

クリスティーン・アレグザンダー，ジュリエット・マクマスター編著・菟原美和 ほか 訳

【大学図・1F 開架 930. 26A/A41k】

子ども時代の書きものに関する画期的な論集。



今日は何色を読もうか？



『アンドルー・ラング 世界童話集』全 12 巻 アンドルー・ラング著 生方頼子ほか訳

【大学図・書庫 908. 3A/A47a/1～908. 3A/A47a/12】

世界中の昔話を集めた古典童話集。挿絵は英国での最初の刊行時のものであり、黄金期の挿絵画家たちの手による美しい絵は物語の世界に奥行きを与えている。

あおいろ に始まり あかいろ みどりいろ きいろ ももいろ はいいろ むらさきいろ べにいろ ちゃいろ だいだいいろ くさいろ ふじいろの 12 色のいろの名前がついている。

<あのことろ> 夢みた世界 妖精・まぼろしの動物・魔女・人魚 etc.



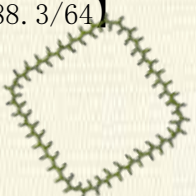
『絵本画家天才たちが描いた妖精』井村君江著 【大学図・1F 開架 726A/I49e】

『幻獣辞典』ホルヘ・ルイス・ボルヘス著 柳瀬尚紀訳 【大学図・1F 開架 388A/B65g】

『「グリム童話の魔女たち」：ドイツ魔女街道を歩く』西村佑子著 【大学図・書庫 388. 3/64】

『人魚の系譜 愛しき海の住人たち』笹間良彦著 【大学図・書庫 388/76】

『人魚伝説』ヴィック・ド・ドンデ著 富樫瓊子訳 【大学図・1F 開架 388. 3/58】



おとぎの国へ

『チェコの挿絵とおとぎ話の世界』海野弘解説・監修 【大学図・1F 開架 726A/U76c】

『少女が知ってはいけないこと：神話とおとぎ話に描かれた「女性」の歴史』片木智年著

【大学図・1F 開架 389. 3/21】

『「美女と野獣」ほかフランス傑作お伽噺集』ジャック・ジップス著 赤尾迪子訳

【大学図・1F 開架 388. 3A/Z4b】

『ロシアの挿絵とおとぎ話の世界』海野弘解説・監修 【大学図・1F 開架 Best/2014】



少年・少女時代

子どもでいたい・おとなになりたい

ここでは、少年・少女が主役の物語を紹介します。

—だから**ぼくが君**の前に行って手を取り、もっといいところに、**ぼくが王様である国**の、王座のそばに**連れていってあげる**。

『幼なごころ』ヴァレリー・ラルボー作 岩崎力訳

【大学図・1F 開架 081.2/33D ア/1846】

八歳から十四歳までの少年・少女を主人公とする繊細で痛くて、美しい短篇集。ローズ・ルルダン/包丁/《顔》との一時間/ドリー/偉大な時間/ラシエル・フリュティジュール/夏休みの宿題/十四歳のエリアーヌの肖像/ひとりぼっちのグウェニー/平和と戦いを収録。

夢見がちで、ひたむきで、この年代特有の苛立ちと独善さに胸が締めつけられる。

—あの夏、わたしは**十七歳**で、**文句なく幸せ**だった。

『悲しみよこんにちは』サガン著 河野万里子訳

【大学図・1F 開架 Shincho/サ 2/28】

二十世紀仏文学界が生んだ少女小説の聖典。

いまは**世界が滅んでいく**のも忘れて、**自分のことだけ**考えてやがる。そんなのは**不当だ**という思いが**苦い波**のように湧きあがる。あいつを完全に**無視**してやる、行きも帰りも。そう**心**に決めた。

『黒と白』トーベ・ヤンソン著 富原真弓編訳 【大学図・書庫 Chikuma/や 29/3】

子どもの心と大人の視線を持つ『ムーミン』の作家トーベ・ヤンソンの短編集。少年・少女を主人公とする『砂をおろす』『発破』『夏の子ども』のほか、孤独とユーモアが詰まった十七篇。自分の気持ちを上手く伝えられない姿は、少年・少女だけでなく大人にも通じる。

少年・少女時代

～思春期の痛み～

「あら！ そうなの？ **十六**になったというので、あんたは**世界の王様**になったような気がするんでしょう？ それ**映画の感化**なの？」

『青い麦』コレット著 堀口大学訳 【大学図・1F 開架 Shincho/コ 4/1】

コレットが終生追究した肉欲のテーマを少年・少女の混乱した心理を通して描いた散文詩的小説。

学校

『蝶々の纏足 風葬の教室』山田詠美著 【大学図・1F 開架 Shincho/や 34/8】

『いじめの時間』江国香織ほか著 【大学図・1F 開架 Shincho/え 10/51】

『リテイク・シックスティーン』豊島ミホ著 【大学図・1F 開架 Gentosha/と 8/5】

『幸福な食卓』瀬尾まいこ著 【大学図・1F 開架 Kodansha/せ 13/1】

モラトリアム

一日だけ、好きな本を読もう。勉強はあしたからだ。

『星々の悲しみ』宮本輝著 【大学図・書庫 Bunshun/み 3/1】

宮本輝、初期の短篇集。表題作『星々の悲しみ』は、浪人生の主人公が同じ予備校に通う二人の医学部志望生との交流を通じて、文学に目覚める過程を描く。十代のころの、何気ない友人との会話、言葉にできないやるせなさに、かつての＜自分＞がみえてくる。

「とうの昔にこの世からいなくなった多くの作家たちが、生きているときに何を書こうとしたのか」を主人公が見出したとき、溢れ出る感情は「本を読むこと」のかけがえのなさを私たちに伝える。

『自分』の世界

誰にもじゃまされない＜私＞だけの王国

《空想の》インタビュー集

—想像力は最大の美德です。

『愛と同じくらい孤独』 フランソワーズ・サガン著 朝吹由起子訳
【大学図・1F 開架 Shincho/サ 2/15】

「最後に、何か念願でもおありですか？」という記者の質問にサガンはこう答える。「十歳に戻ることです。大人でありたくないのです」と。
愛について、孤独について、その人生観を浮彫りにした作家サガンのポートレート。

—「君は本当はいい子なんだよ」

『ベスト・オブ窓ぎわのトットちゃん』 黒柳徹子著 ドロシー・ブリトン訳
【大学図・1F 開架 830.7/80/9】

黒柳徹子さんの子ども時代を描いた作品を、ふたたび「対訳」で読んでみよう。

—おやすみなさい。私は、王子さまのいないシンデレラ姫。

『太宰治』 太宰治著 【大学図・1F 開架 910.8/22/8】

太宰のもとに送付された女性読者の日記を題材にした『女生徒』より。

『自分』の世界

『長くつ下のピッピ』の作者を訪ねる

『遊んで、遊んで、遊びました リンドグレーンからの贈りもの』

シャステーン・ユンググレーン著 うらたあつこ訳 【大学図・1F 開架 949.8/6】

晩年のリンドグレーンを訪ね、その創作の秘密に迫った、心あたたまるインタビュー集。
表紙はなんと晩年のリンドグレーン本人が木登りをしている姿が使われている。

『小公女』や『秘密の花園』の作者バーネットの“心の軌跡”

— 想像力あふれるどの子にも当てはまる物語

『バーネット自伝 わたしの一番よく知っている子ども』

フランシス・ホジソン・バーネット著 松下宏子・三宅興子編訳

【大学図・1F 開架 930.28A/B93b】

大人になったバーネットが作家の目で幼いころの記憶をつづった本。想像力豊かな少女が周囲の無理解に苦しみながらも物語世界への切実な思いを貫いていく。雑誌掲載第一作『ハートとダイヤモンド』も収録。

おわりに

今回紹介した本の中から、大学生になって遠ざかってしまったかもしれない、子どもの頃の記憶を思い出してもらえたら嬉しいです。

最後まで読んでくださり、本当にありがとうございました。



『あそこ～子ども時代を本で振り返る～』

発行日：平成 27 年 12 月 22 日

担当者：学習院大学 文学部

フランス語圏文化学科 工藤果林

監修：学習院大学図書館情報サービス課 内藤

発行元：学習院大学図書館